



福崎町立  
柳田國男・松岡家記念館  
〒679-2204  
神崎郡福崎町西田原  
1038の12  
電話：0790-22-1000

# 『播磨国風土記』研究からみる

## 井上通泰と柳田國男の関係

本年度の特別展で取り上げる井上通泰の『播磨国風土記新考』の執筆を通泰に勧めたのは、実は、弟の柳田國男です。

大正14(1925)年3月5日に國男が通泰のもとを訪れて、「播磨風土記の研究は文学・史学・地理学に亘る為頗困難であるが、あなたは幸い文・国史を兼修せられて居る上に播州の産で地理の研究にも便宜があるから是非やつて御覧なさい」と語っています。この言葉から、國男は通泰の国文・国史の研究業績を認めていたことがわかります。

そして、通泰は同年4月10日に『播磨国風土記新考』の執筆を始めます。このとき『万葉集新考』を執筆の最中でした。それにもかかわらず、國男の勧めを受け入れた理由を、通泰は次のように記しています。

当時、通泰が執筆している『万葉集新考』が完成してしまおうと安心してしまいかもしいないと、國男が心配したのではないかと理解し

ています。

この記述から、通泰と國男の間には厚い信頼があったことが伺えます。

### 名作著書紹介

## 故郷七十年を 読む

通泰と國男をつなぐものの一つに鈴の森神社にある「やまもも」があります。『故郷七十年』で、國男は次のような歌と思い出を記しています。

うぶすなの森のやまもも高麗犬は懐しきかなもの言わねども

鈴の森神社の氏神様は明神様ともいい、村人は赤ん坊が生まれると神社



柳田國男・松岡家記念館

☆☆入館案内☆☆

☆開館時間

9時～16時30分  
(入館は16時まで)

☆休館日

月曜、祝日の翌日  
12月28日～1月4日

☆入館料

無料

に詣でて、小豆飯を供えていました。

そして、お供えした小豆飯を一箸ずつ、集まった子ども達がさし出す掌の上にのせるのが慣わしであり、子ども達の楽しみでもありました。

しかし、國男は小豆飯をもらったことがありません。なぜなら、親に叱られるからだとして記しています。

一方、通泰は次の歌を残しています。

うぶすなの 杜の  
やまもも ふるさとは  
はかなきことも  
こひしかりけり

これは、通泰が故郷を偲んで詠んだ歌です。

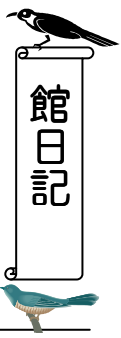
國男だけでなく、通泰にとっても、鈴の森神社のやまももは、懐かしい存在であり、お互いに共通する思い出があったことが伺えます。

この通泰の歌碑が、通泰の遺骨の一部が納められている西治の観音寺に建てられています。



先月号でお伝えしましたように、6月4日から8日にかけてトライヤル・ウィークが実施されました。

福崎西中学校生2名が記念館でのさまざまな仕事を体験し、二つの成果を残してくれました。一つは國男の生家の掃除体験と現状調査です。そして、もう一つは柳田國男が何回辻川に帰省したかを調べたものです。その結果は「柳田國男帰省録」柳田國男は何回辻川に帰ってきたのか」と題した展示パネルを作成してくれました。中学生による二つの成果を記念館で展示する予定にしておりますので、ご期待ください。



柳田國男生年表

一	生誕	大正十一年一月一日
二	入塾	大正十一年四月一日
三	卒業	大正十三年三月
四	就職	大正十三年四月
五	結婚	大正十三年七月
六	帰郷	大正十三年八月
七	没	昭和十一年七月